

年末に新聞折り込みした広告についてのこと

令和7年12月末頃に、「士別軌道の路線バスの現状などについてご説明申し上げます」と題して、A3サイズ（A4で4ページ）の広告というか説明文というか、主だった新聞に士別市全域、折り込みを入れました。弊社HPに掲載しておりますので、内容は読んでいただけると幸いです。

これを行った理由は、士別市が行った市民アンケートの内容をみて、路線バスの実情を知ってもらいたかったからです。実態や情報を良く知らない市民アンケートは、あまり意味がないと思っております。

このような情報発信は、自分が社長になった頃から、積極的に行って来ました。特に、朝日線の赤字がとんでもない額になり、減便に踏み切った頃から、なぜ減便するのか、朝日線を1年間運行するのにどれだけのコストがかかり、どれだけの収入があるか、差し引き膨大な運行赤字が出ている、など数字も示して時系列に折り込み広告で説明しました。また、この路線に運行補助金がないこと、士別市へ要望書を出したこと、その結果も書きました。

士別軌道は民間会社ですが、地元の公共交通の一端を担っております。一般企業ならこのような情報発信はしないでしょう。この街における、乗合バス路線という生活に直結する責務を負っておりますし、将来も維持していかなければなりません。そのための情報発信です。

反応はと申しますと、数件、自分あてに電話やメールがありました。それほど多くありませんでしたが、1時間ほど電話で話した方がおりました。真剣に考えていただいている方です。最近では新聞を取らない、見ないという人も増えているのかと思います。

そのなかで、北海道新聞士別支局長がこの広告をみて、士別軌道に取材に来ていただきました。いろいろ話しましたが明るい話題ではありません。民間バス会社のことなので、記事にするのは難しいと思いました。

2月1日の日曜日夕方頃、前日の土曜日31日夜に前の職場のOB会があり、幹事長なので司会進行やらなにやら、多少の苦情など受けながらなんとか無事に終わらせ三次会まで飲み、翌日、やっと回復したのが夕方なのですが、北海道新聞を読んでいると「北だより」というコラムに士別軌道の記事がありました。士別支局長が記事を載せてくれました。

その記事で最後に「地域の維持には住み続けられる環境が必須。公共交通をどう持続させるか。総選挙では、こうした政策論議も期待したい」と締めくくっておりました。感謝です。

そういえば、士別市議会の議員のなかで士別軌道がコロナ禍で瀕死のところ、様子を見に来てくれたのは2名でした。1名の議員はなんと、バス会社の苦境を聴くため副大臣を士別軌道に連れてきてくれました。ありがたいことですし、驚きました。その後、国や道、市などのコロナ支援があり、なんとか乗り切れたものです。

12月25日の折込広告を入れても、士別市の市議員は誰も来ないですね。コロナ以降、もう、何年も市議員は来ておりません。

2026年2月 士別軌道 社長 井口 裕史